

2025年の新年を迎えて



●2025年定期総会の徳永会長あいさつ

新年のあいさつ・徳永会長

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には家族お揃いで、お元気に新年を迎えられたことと思います。

昨年は能登半島地震に始まり、1,000日を超えるロシアのウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとハマスの戦争、円安と物価高、裏金問題、岸田首相退陣と石破首相の誕生、解散総選挙による与党の過半数割れ、トランプ大統領復帰など激動する一年でした。

大阪退職者連合は、超少子高齢化社会に対応した社会保障制度改革の取り組みの一環として、「介護保険制度・高齢者保健福祉制度等に係る要請」を府域の全自治体に行くことを重点課題として運動展開しています。しかし、自公政権がもたらした格差と貧困は、日本の社会システムを劣化させ、不透明で未来に希望が持てない日々が続いています。

今まさに、私たちが平和で生き生きと安心して暮

らせる社会を目指し、賃金、年金、医療、介護、子育て、ジェンダー平等などあらゆる課題の前進に向けて取り組みを強めなければなりません。

また、今年7月に参議院選挙が実施されます。また、衆議院解散総選挙もいつあってもおかしくない状況です。しかし、SNSに翻弄され真実が正しく有権者に届かない事態も惹起していることから、会員に対する情報伝達や選挙対策全般のあり方も再考しなくてはならないと言わざるを得ません。自公政権に変わる政権の確立と、大阪における「維新政治」に決別し、行政施策を住民と共に進め、多様性を大切にする社会、安心・安全の政治を推し進めるため、各級選挙の必勝に向け、連合大阪と現退一致で取り組む決意です。皆様方の最大限の取り組みをお願いいたします。

今年一年も、これまでと同様に大阪退連の活動に対し組織一丸となってご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝、ご活躍を祈念して新年のご挨拶とします。

近畿ブロック退職者連合 第31回定期総会と 30周年記念式典を開催

近畿ブロック退職者連合は10月29日、大阪市内で第31回定期総会を開きました。定期総会は、163人の参加要請に対し、140人の参加で有効に成立し、京都退職者連合の和田昌子代議員と奈良退職者連合の堀田棟光代議員を議長に選出し、議事が進められました。来賓としては、日本退職者連合の人見一夫会長と連合近畿地方ブロックの田中宏和代表幹事(連合大阪会長)の連帯挨拶を受けました。総会の議事は、順調に進み、徳永代表幹事を含めた新たな役員体制を確認して終了しました。総会終了後は、総会参加者全員が一堂に会し、30周年記念式典として、節目のお祝いの会を持ちました。



●徳永代表幹事のあいさつ



●田中会長のあいさつ



●30周年記念式典の参加者

2025年度の3つの重点課題

1. 政治の課題

先の衆議院総選挙結果は、自公の政権与党は公示前勢力を大幅に減らし、過半数割れという結果になりました。とくに、私たちが支持する立憲民主党と国民民主党は大幅に議席を増やしました。この結果は、裏金問題や旧統一教会問題に象徴される政治不信に、ケジメをつけられなかった政府与党に対する国民の怒りの現れだといえます。

新たな議員で構成される国会では、社会保障制度の抜本的な問題解決に向けて、非正規労働者を中心とした低賃金勤労者の所得水準の大幅アップと、年金制度や健康保険制度を中心とした制度改革の議論が必要です。同時に、国民が望んでいる政治とカネの問題にケジメをつけ、信頼回復をはたし、物価高や賃金対策、少子高齢化対策、災害復興、多様性の確保などの課題解決に向けた積極的な国会議論を求めます。

大阪では「異様な結果としか言いようのない」全選挙区で維新候補が勝利しています。政党支持率が22%しかない維新が、19選挙区で全勝する事実を総括しなければなりません。特異な状態の大阪で、「維新」は議会制民主主義の基本である二代表制を無視し民意を大事にしない政治手法を強行しています。また、直近の兵庫県知事選挙の結果は、デマや誹謗・中傷が平然と行われ、若年層を中心とした世代に対するアピールの方法や政策提起、SNS活用の重要性、民意の多様化により、想像を超えるスピードで社会の変革をもたらしています。

各産別の力量が問われる参議院選挙は、2025年7月に実施されます。大阪退連は、各産別の組織内予定候補の必勝はもとより、連合推薦候補の勝利に向けて、連合大阪と現退一致で取り組みます。

2. 介護保険制度の改悪は許さない

大阪退連は、日本退職者連合に結集し「安心・信頼の社会保障制度の確立」を求め「現退一致」で取り組んでいます。とくに、超少子高齢社会の中で私たちの生活に直結する、高齢者医療保険制度、年金制度、介護保険制度、認知症対策に焦点を当てて運動を展開し、大阪府域全自治体に独自の要請活動を行っています。

この間、政府は賃金引き上げや格差是正を置き去りにし、年金・医療・介護など社会保障制度の改悪など強行してきています。2024年は5年に一度の年金制度の財政検証がされて、年明けの通常国会において議論されます。103万や106万、130万の壁問題が新たな争点となり、複雑な議論が行われると想定されますが、議論動向を注視しつつ安心して暮らせる年金制度を求めます。また、介護保険改悪の議論がされようとしています。その主な内容は「自己負担2割標準」「要介護1・2の総合事業への移行」「ケアプランの有料化」などで、介護保険制度の根幹を揺らがし、私たち高齢者の生活を根底から揺らがすものとなっています。大阪退連は、高齢者の生活を直撃する改悪議論を絶対に許さない取り組みを強化します。

3. ジェンダー平等の実現

大阪退連は、先の定期総会で「ジェンダー平等アクションプラン」を提案し、その具体化を図ることを決定しました。各産別の退職者会の構成実態や女性会員の構成人数によって、組織ごとに大きな違いがあることから、一朝一夕には課題が前進するとは思われませんが、「ジェンダー平等の実現」に向けた理念の共有と運動の具体化を進めます。

大阪退職者連合2025年度定期総会を開催

● 団結ガンバロー



ジェンダー平等アクションプラン などの活動方針を確認



● 奥山弁護士の記念講演



● 清水副会長の3号議案提案

大阪退職者連合は11月18日、大阪市内で「2025年度定期総会」を開催し、役員と代議員156人が出席しました。第1部では、弁護士の奥山泰行さんから「成年後見制度と遺言書の作成」をテーマに講演いただきました。

第2部の総会では、冒頭にこの1年間に逝去された多く仲間のご冥福をお祈りし、黙とうしました。その後退職女性教職員の会の吉田勢子さんとNTT労組退職者会の小迫修さんを議長に選出し議事を進めました。来賓として、日本退職者連合の野田

那智子事務局長と連合大阪の田中宏和会長から挨拶を受けました。議事に入り、経過報告・決算報告・会計監査報告を確認した後、第1号議案の活動方針と第2号議案の予算を松本事務局長が提案し、第3号議案のジェンダー平等アクションプランは清水副会長から提案し今年度の取り組み方針を満場一致で確認しました。最後に、決定された方針に基づき組織が総力で闘うことを確認し、参加者全員で団結ガンバローを三唱して総会を終了しました。